



絆

きずな

平成27年1月
第48号
荒川区立南千住第二中学校
校長 齊藤 進

ナンちゃん・ニーくん



克己

校長 齊藤 進

1月2日、3日に第91回箱根駅伝が行われました。総合優勝を勝ち取ったのは、創部98年目にして初めての優勝となる青山学院大学でした。

母校が初優勝ということで、勇んで大手町に駆けつけると、まだ最終ランナーが通過するまで1時間はかかるというのに、ゴールとなる読売新聞社前から日本橋方面にかけては人、人、人で沿道は溢れんばかりでした。

パトカーに先導されたランナーがいよいよ近づくと一緒に応援の旗が振られ、選手に送られる歓声はテレビでは実感できないほど大きなものでした。1位通過の選手には思わず「いいぞ安藤、よくやった」と母校の健闘に大興奮でしたが、次々に通過する各大学の選手にも同じように声援を送りました。実際に近くで見ると各選手がフラフラになりながらも懸命に走る姿に感動を覚えます。どこの大学かということとは関係なく、一人の懸命に死力を尽くす姿に胸が打たれます。とくに、最終の10区で最下位となってしまった中央大学の選手にはひときわ大きな声援が送られました。

沿道で熱い声援を送りながら各選手の懸命な姿と受験に向かう3年生の姿が重なりました。状況は違いにせよ、目標に向かって頑張ることに変わりはありません。今、3年生は不安な気持ちを抱えながら懸命に目標に向かってがんばっています。そんな3年生に 克己(こっき)「おのれに打ち勝つ」という心をもってほしいと思います。駅伝選手は日ごろの厳しい練習に耐え、仲間にタスキをつなごうとして、各 구간を走ります。走っているときは、声援は受けても一人の力で走り抜けなくてはなりません。誰かの力を借りることは出来ないのです。孤独との戦い、弱気な自分との戦いを乗り越えずしてタスキをつなぐことはできません。

3年生は目標に向かうランナーなのかも知れません。どうか、自分を信じてがんばって走り抜けてください。心の中で3年生に応援の旗を振り続けたいと思います。

新しい年を迎えました。今年が生徒、保護者、地域の皆様にとって素晴らしい1年となるよう皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



たこ揚げ大会ボランティア

1月11日(日)、南千住地区委員会主催の「新春たこ揚げ大会」が今年も荒川スポーツセンターで行われました。南千住二中からは、毎年ボランティアとして生徒が参加しています。今年も8人の生徒が参加しました。

ボランティアの内容は、会場作り、参加者の受付、たこ作りの材料や道具の準備・貸し出し、たこ作りの補助、そして完成した「たこ」を、グラウンドで小さい子どもたちと一緒に元気に揚げました。もちろんその後の片付けも手伝いました。特に「たこ作り」では、子どもたちの話を聞きながら、その創造力を十分に引き出しながら手伝うことが大変でした。

会に参加した小学生以下の子どもたちも大喜び。その保護者の方や地区委員会の委員の方からも感謝のお言葉をいただきました。ボランティアに参加した皆さん。ありがとうございました。

〔たこあげ大会ボランティア参加者〕
(2-2)女子1名、(2-3)女子2名、
(1-1)女子1名、(1-2)男子2名、女子2名



小さい子の「たこ作り」をお手伝い



完成した「たこ」を元気に揚げる

1年生

セーフティ教室

1月17日(土)の学校公開日3校時に、1年生を対象としたセーフティ教室が行われました。今回の内容は、ネット社会の今、安全にインターネットなどを活用するための注意点について、警視庁のサイバー犯罪に携わる方からお話を聞きました。お話の中では、最近よく耳にする「ワンクリック詐欺」や「有害サイト」への誘導や違法な請求などから自分を守る具体的なお話、さらに、電子メールや「LINE」でのトラブル、自分が加害者になるケースなどの問題点も指摘され、ネット上のマナーやルールの大切さを教えていただきました。

インターネットなどが身近になった現代では、それを正しく使う方法と知識が必要なことを改めて認識することができました。ご指導をいただいた警視庁の方々、南千住警察の皆さん、ありがとうございました。

南千住警察署の方のお話



熱心にお話を聞く1年生

校内書き初め展

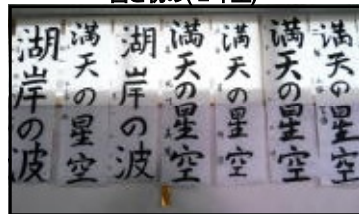
冬休みの国語の宿題だった“書き初め”が、各学年のフロアに一斉

に貼り出され、「校内書き初め展」が行われています。どの学年のどの生徒の作品も力作揃いです。

また、並行して「校内作品展示会」も行われています。霜月祭(本校文化祭)以後の教科等の作品が展示されています。優秀作品は荒川区連合生徒作品展(1/23～26)に出品します。

書き初め展は1月23日(金)まで、作品展は1月30日(金)までの予定です。保護者・地域の皆さまも是非ご来校いただきご参観ください。

書き初め(2年生)



前...美術 粘土作品 空き缶(1年生)
奥...美術 観光ポスター(3年生)

社会を明るくする運動作文コンクールで東京都中学校長会長賞を受賞した 2年2組男子の作文が大変高く評価されています。先日「社明パレード」の開会式でも全文が紹介されました。改めて全文を掲載させていただきます。

「あいさつ」から学んだこと

南千住第二中学校 二年二組男子

僕は、日頃からあいさつをするように心がけています。なぜかと聞かれても、答えようがないくらい「あたりまえ」のことになっています。しかし、無理にでも理由を付けようとするなら、あいさつは「百利あって一害なし」だと思うからです。

二年ほど前、僕の一家は新しい家に引っ越してきました。引っ越した直後は、近所に顔見知りの人は一人もいなくて、家の周りにも何だか落ち着きませんでした。

そこで、学校に行くとき、遊びに出かけるとき、帰ってきたときにあいさつしてみようと思いました。近所で何度か見かけた人には、「おはようございます。」

「こんにちわ。」などと、会うたびに声をかけるように心がけてみました。

すると、しだいに『あのおじいさんは、あそこの家の人。』『そのおばさんはそっちの家の人。』と、わかるようになりました。

ある日、母は近所のおばあさんから「お宅のお子さんは、よくあいさつしてくれるのよ。良い子ねえ。」とほめられたと言いながら、とてもうれしそうに帰ってきました。手には果物を抱えていたのだ。

「それ、どうしたの?」と聞くと、そのおばあさんから「皆さんでどうぞ。」といただいたと言うのです。その後も、度々お菓子や果物をいただくようになり、うちからも、我が家で食べきれないものがあると「おすそ分け」するようになりました。朝、一声「おはようございます」と言うことで、ご近所に知り合いのいなかった母も、

周りの人たちとコミュニケーションがとれるようになりました。

一家で出かけて家を留守にするときも、「おとなりさん」にあいさつに行く母に、「どうして隣に声をかけるの?」と聞くと、何かあったときに気にかけていただけからだと教えてくれました。いないはずの家の中に、誰かがいれば、ドロボウかもしれないと気づいてくれるなら、安心です。

今年の冬、東京ではめずらしく、大雪が何度か降りました。雪の日の朝、玄関を開けると家の前の雪がきれいに片付いていて驚きました。ありがたいことに、前の家のおじさんが、僕の家の前の雪かきもしてくれていたのです。ふと、校長先生が朝礼で「昔は向こう三軒両隣の雪かきをしたものだ」という言葉を思い出し、『このことなんだ。』と納得しました。

次に大雪が降ったとき、『今度は僕が近所まできれいにしよう。』と思い、一人で雪かきをしていると、次から次へと近所の人たちが家から出てきて、どうやると雪が邪魔にならないか、どうすれば早く溶けるかなど、丁寧に教えてくれて勉強になりました。勉強は学校だけでするものじゃないのだなと思いました。

近所の人たちと協力して雪かきをしていると、一人でやっているより楽しくて、時間がたつのも忘れてしまい、一段落したときにはそう快でした。

あいさつは一瞬で終わるものですが、それがきっかけで近所の皆さんとの「長くて深いおつきあい」ができるようになるのだと実感しました。

3学期始業式

1月8日(木)は3学期始業式でした。現在、南千住二中のアリーナ(体育館)は、天井の張り替え工事のため使用できません。

そのため、始業式も校庭で行いました。

朝の登校は通常通り8:25。2学期と変わることなく元気に登校し、各学年のフロアには活気が戻りました。新年の新たな決意と目標を胸に、はつらつとした眼差しが光っていました。通常であれば登校後すぐに始業式ですが、アリーナ工事のため、この日は各クラスでの学活をはじめに行いました。学年集会などの後、全校生徒が校庭に集合して始業式を行いました。

この形式は、2学期終業式も同じでした。どちらも寒い日でしたが、きちんと整列し、整然と式を行うことができました。

なお、アリーナの天井工事は2月いっぱい続く予定です。

校長先生のお話は朝礼台で



生徒は整然と整列

部活動等 生徒の活躍

《サッカー部》 荒川区民大会 **優勝**

《バレーボール部》 女子 ユニファイト 汐入大会 **準優勝** 荒川区1年生大会出場

《バスケットボール部》 男子 荒川区教育リーグ出場 女子 荒川区教育リーグ **第2位**

南千住マイスターのコーナー

この寺に因りて深い人物の一人として「永井荷風」という小説家があります。荷風は明治から大正、昭和初期にかけての小説家です。1879年(明治12年)12月3日、東京小石川で生まれます。本名は永井壮吉といひます。父は内務省衛生局に勤務していたリポート家庭で、幼稚園小学校初等科・高等科、そして高等師範学校附属尋常中学校(現・筑波大学附属中学校)2年に編入学と順調に進んでいました。この頃荷風の影響もあり、歌舞伎や邦楽に親しみ、さらには漢学・日本画・書も学びました。1894年、病氣になり中学を休学します。この長期休養中に文学に目覚めたようです。中学卒業後は裕福な家庭らしく、上海に旅行したり、アメリカやフランスに渡り大手銀行に勤めたりしました。しかし、これらの国々で見たことや経験したことをもとに文学活動に没頭するようになります。29歳から30歳にかけて『あめりか物語』『やらんす物語』などを発表。また、夏目漱石からの依頼により朝日新聞に『冷笑』が連載された他、『新婦朝者日記』『深川の唄』などの傑作を発表していきます。かの有名な夏目漱石や森鷗外とも親交がありました。1910年には、森鷗外らの推薦で慶應義塾大学教授となりました。また、谷崎潤一郎を世に送り出したのも荷風です。

その後晩年にかけて荷風は吉原の遊女などの生き方に焦点を合わせた作品も多く手がけます。それが浄閑寺とのつながりを生みます。荷風は何度も浄閑寺に足を運びます。1959年4月30日、79歳のとき一人暮らしで荷風は最期を迎えます。司ヶ谷霊園に葬られましたが、荷風は浄閑寺に葬られたと記していました。その遺志を継ぎ、浄閑寺の住職や仲間・弟子たちが、1963年(昭和38年)月18日、遊女らの「新吉原総霊塔」と向かい合せて、詩碑と筆塚が建立されました。

荷風の作品はちやうど難しい面もあると思います。少し大人にならたら読んでみたいでしょう。



浄閑寺 荷風の詩碑(左)と筆塚(右)

南千住と歴史上の人物 その9

『永井荷風』と浄閑寺